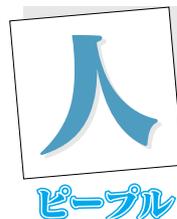


交流のひろば

情報をお寄せください。市役所広報広聴課 890-6642へ。

俳句は一瞬のひらめきで

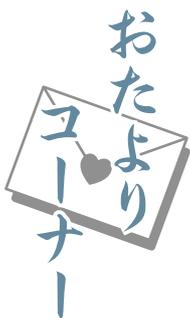


芦屋国際俳句祭で大臣奨励賞
渡辺 善一さん(82) 上泉町

第三回芦屋国際俳句祭で文部科学大臣奨励賞を受賞した。「市民俳句大会では十二回入選していますが、全国レベルの大会で大きな賞をいただいたのはこれが初めて。自分でも驚いているんですよ」

受賞作は「案山子抜き景色が横になってをり」。稲の刈り取りが済んだ近所の田んぼで、その役目を終えたかかしが、横になっている情景を詠んだ句だ。「俳句は一瞬のひらめきが大事。いろいろ考えて作っても良い句はできません。短歌もやっただけではありません。言葉省略して表現する俳句に面白さを感じ熱中しているんです」

「俳句を始めたのは退職後の六十二歳から。中央公民館の明寿大学で学んだことがきっかけだった。その後、前橋ホトトギス会で指導する岸善志氏に師事しながら、本格的に取り組むようになった。既に『遠花火』『陽炎』の二つの句集も自費出版した。「平成十一年と十四年に結腸がん、脳こうそくと二度の大病をしました。一時は字を書くこともできないほど。でも、俳句に没頭することで前向きに生きる姿勢を今も持ち続けられています。アメリカの詩人・サムエル・ウルマンの『青春』という詩の中にあるように、年を取っても目標を持って生きれば、青春なんだということを実感しているんです」



ありがとう

大好きな前橋

江田町・藤川宜子

主人の転勤のため、この春前橋を離れることになりました。七年前、「前橋へ転勤」と聞かされたら、「北関東のどんな街だろう」と思いはせたのが昨日のことのよつです。前橋は静かで住みやすく、県庁所在地ということ

もあって大変便利。また、上州の人は義理と人情に厚く、多くの良い友人に恵まれました。どんど焼きや上毛かるた、地藏祭りなどこの地ならではの行事に親しめたことも良い思い出。まだ幼かった三人の子どもをこの地で伸び伸びゆったりと育てられたことに感謝しています。今、この地を離れなければならないと思うと、どんな風景を見ても涙が出てしまいます。しかしいつまでも泣いてばかりはいられません。新しい土地で頑張らなくては。前橋は第二のふるさとです。みんなありがとう。ありがとう前橋。どうか素晴らしい街であり続けてください。

まちのニュース

芳賀地区

交流深めたボウリング



二月二十九日、芳賀小でスマイルボウリング大会が開かれました。芳賀体育協会の主催で毎年行われ、今回で二十一回目。各町の二十八チームが、A・Bのブロックに分かれて熱戦を展開しました。見事なストライクが出て歓声上がるレーンもあれば、ゲートを倒してしまい、残念がるレーンも。真剣な中にも和気あいあいとした雰囲気が出ていました。芳賀体育協会の横堀万作会長は、「スマイルボウリングは、誰でも楽しく参加できるスポーツ。健康増進と住民同士の交流には最適ではないでしょうか」と語っていました。